



# THERMAL ENGINEERING

TED Newsletter No.22 July 25, 1997

## 追悼 土方邦夫 先生

本会熱工学部門長であられた土方邦夫先生におかれましては、平成9年5月18日、急性心不全のためご逝去されました。享年54歳。本号のニュースレターを土方先生の追悼号とし、ここに謹んで哀悼の意を表します。

(広報委員会)

### 故 土方邦夫先生のご略歴

1966年3月	東京工業大学理工学部機械工学科卒業
1971年3月	東京工業大学大学院理工学研究科博士課程機械工学 専攻修了(学位論文「高速二相流の基礎的研究」)
1971年4月～1978年7月	東京工業大学 助手 工学部機械物理工学科
1978年8月～1987年6月	東京工業大学 助教授 工学部機械物理工学科
1982年5月	カリフォルニア大学バークレー校研究員
1987年7月～	東京工業大学 教授 工学部機械物理工学科
1993年10月	カリフォルニア大学バークレー校 Springer Distinguished 教授



この間、Nuclear Engineering and Design、Experimental Heat Transfer、Journal of Flow Visualization and Image Processing のエディター、Environmental Protection に関する日米セミナー幹事(1995)、Micro-Scale Transport Phenomena に関する日米セミナー代表(1996)、Thermal Science and Engineering 編修委員長(1996)、日本機械学会理事、熱工学部門長、評議員、日本学術会議熱工学研究連絡委員会委員、日本伝熱学会副会長、科学技術庁各種委員会委員等を歴任された。

研究においても卓越した業績を残され、以下の学会賞を受賞されている。

昭和55年4月	日本機械学会論文賞(膜状凝縮に及ぼす表面張力の影響(微小なみぞにおける液膜の研究))
昭和59年4月	日本機械学会論文賞(電場による凝縮伝熱の促進に関する基礎的研究)
昭和63年4月	日本機械学会論文賞(ホログラフィーを用いた軸対称衝突噴流の圧力場の可視化に関する研究(第1報、完全発達領域での衝突))
平成5年11月	日本機械学会 熱工学部門貢献賞
平成8年5月	日本伝熱学会賞(CO <sub>2</sub> Absorption into Liquid)

## 土方邦夫先生の急逝を悼む



第75期 熱工学部門長  
高城敏美（大阪大学）

去る5月18日朝、前部門長の鈴木健二郎先生から、部門長の土方先生が急逝されたとの連絡を受けた。このような信じ難いことが起こり得るのだろうか。この3月末には、土方先生は、部門の運営委員会の議長をされ、部門賞の授与を担当され、また、ASME/JSME熱工学合同会議の日本側代表として、委員会を組織され、論文集のCD-ROM化を含め、意欲的に準備を進めておられました。また、先生とともに部門の各種技術委員会が活動を開始し、新研究分科会の設置、ニュースレターの送付についての新方式の推進、ホーム

ページの活用などにも取り組み始められた矢先でした。

先生は、研究では、解析的、実証的、ミクロ的、ときにはマクロ的な視点から、困難な問題に果敢に挑戦され遂行されました。常に敬意をもって拝見しておりました。

先生は、環太平洋熱工学ワークショップを提唱され、この3月中旬には、先生が世話役の中心となり、香港科学技術大学で第一回が開催されたばかりでした。また、いくつかの熱工学関連の日米科学セミナーの開催に主要な役割を果たされましたし、その他、多くの重要な役割を担当しておられました。

先生は豊かな構想力と理論に基づき、さらなる活動を構想しておられたことでしょう。先生のご心中は察するにあまりあり、いまはただご冥福をお祈りするばかりです。

先生への熱工学部門からの弔辞は次のとおりでした。「先生のたくい希なるご功績と暖かなご指導を偲び、心よりご冥福をお祈りいたします」

## 部門長の急逝に接して



第74期 熱工学部門長  
鈴木健二郎（京都大学）

土方邦夫先生急逝のご連絡を戴いたときには、あまりにも突然のことで言葉を失ってしまいました。それから1ヶ月が経過した今も、時折信じられない思いになる。

先生は、私の存じ上げていただけても、多数の要職を兼ねておられたが、とくに熱工学部門にとっては、先生は部門長であられたし、また部門の重要な行事である次回のASME/JSME合同熱工学会議の日本側議長でもあられた。しばらくして、一時の呆然自失からは立ち直ったものの、先生の急逝に伴う部門運営体制の再編をどのようにして行えば良いのかについては、途方に暮れる思いであった。

本年3月29日に開催した今期の第1回新旧拡大運営委員会において、先生は新部門長就任の抱負として、「運営委員会は、部門の運営に全責任を負っており、議論倒れの論評をする場ではない、健全な財政を確保するために収益性が高く、部門登録者に対して高質のサービスとなる、諸事業を企画し、実行する母体でなければならない」と述べられ、「それぞれの委員が、積極的かつ具体的な寄与をし

て下さることを期待する」と、全委員に支援を求められた。前期は、熱工学部門新設後最初の10年の終わりの年であり、丁度部門協議会において部門の統廃合が具体的な議題となったことも影響して、守勢的な部門運営しか出来なかった。今期は、次の新しい10年が幕開けする年にあたっており、先生は積極的な部門の運営によって、伝統ある本部門をさらに一段と活気のある部門に成長させようと考えられたものと思う。先生は、強いリーダーシップを持っておられ、今期のそのような部門活動を展開する上で、打ってつけの部門長だと思ったものである。その先生が亡くなられたことは、熱工学部門としては大変な打撃となった。

土方邦夫先生が亡くなられてから、2回の総務委員会と1回の運営委員会が急遽開催され、新部門長に人望の厚い高城敏美先生が、また副部門長に有能な庄司正弘先生が選出され、熱工学部門の運営も再び軌道に乗り始めた。土方先生のお考えを継ぎつつも、御二人の先生方の持ち味を活かした、また新しい形態の部門運営をしていただけるものと期待している。

このように、今期の部門運営体制が比較的短時間に再編成できたことが、せめてもの亡き先生へのご報告になる。土方邦夫先生のご冥福を、切にお祈り申しあげる次第である。

## 土方邦夫先生の逝去を悼む

熊田雅弥（岐阜大学）

5月18日早朝、土方先生のお嬢さんより連絡を受けた

時、一瞬言葉を失いどう答えたか今尚覚えがない。前日の夜電話で話をしたばかりで、どうして、彼がと思うばかりである。私が土方先生と初めて出会ったのは、昭和45年に東大の平田先生の研究室に内地研究員としてご指導を受けていた時、森・平田両研究室の対抗野球試合に参加した

時で、それ以来の長いお付き合いになります。森研にすごい切れ者がいるということは聞いていたが、その時の印象はエネルギーでいて穏やかな人で、それは死ぬまで変わらなかった。

追悼文として、土方先生のこれまでの世界的な業績・功績は、また今後期待されていた学問・学会での指導的役割や国際的な活躍はということ、今言葉や文字にしても虚しく思われて仕方がない。彼の劇的な死は何れ風化するでしょうが、53歳という若さ故にそこには美学があり、うらやましい限りである。彼が、蒔いた種や天国に貯金したものが、何れ成長し新しい力となって引き継がれていくと思う。しかし、彼が偉大であればあるほど現実とのギャップは大きく、特に難しい時代になってきた今、私は彼が最後まで私に話してきた「結果」を見るのがなくて良かったと思っている。彼には今まで実際の挫折はなかったと思うからです。

彼は、私には話しても仕方がないと思ったのか、私の研究上のことは何も直接言わなかった。言ったとしても何時

も誰かに例えた間接的なものでした。それが彼の優しさであるとしても、もう残された時間を考えれば同じことです。彼が電話をしてきて私に話してくれたことと言えば、国内外の学会、若手研究者やこれからの学問・教育についての「ぼやき」がほとんどでした。聞き疲れて、それならば止めたらという、好きで始めたことだからと何時も答えは決まっていた。そのストレスが彼の人生を短くし、ご遺族をして身勝手な死との表現になったのでしょうか。好きで始めたことは「学問」であって、人間の「組織」の発展ではなかったと思う。彼が大学のadministrationに最後まで無縁で良かったと思っている。彼が知っていたかどうか定かではないが、また彼が同意するかどうか判らないが、彼の学問に対する「完璧」さが通用する世界ではないと思う。成熟の中に必然的に発芽する爛れを自然に求めてしまう歳になることなく憤死した親友に今は安堵感さえ覚える。失礼な表現をお詫びし、哀心よりご冥福をお祈りし、ご遺族に心からお悔やみ申し上げます。

## ニュースレター形式の変更について

広報委員長 清水昭比古（九州大学）

標記の件は、第75期部門長故土方邦夫先生のリーダーシップのもとに、熱工学部門75期体制発足以来検討されてきたもので、改めて土方邦夫先生の突然のご逝去を悼みご冥福をお祈り申し上げます。先生の御遺志を引き継ぐ形で新部門長高城敏美先生と協議を重ねて参りました経緯をご説明します。

74期の部門収支決算によれば、74期熱工学部門の年間総支出額は約360万円、そのうちニュースレター関係支出は279万円と実に78%を占め、さらに279万円の内訳は印刷費が110万円であるのに対し残り169万円の大半はニュースレターを6,500余名の部門登録員にお届けする郵送費となっております。この経費を削減し余剰を講演会・講習会の充実、或いは出版事業等に廻せばより有意義な部門活動が展開できるのではないかと、そのためには現在年3回発行されているニュースレターの2回程度を、部門がページを買い取る、という形で機械学会誌本誌に移して掲載してはどうか、というのが土方先生のお考えでありました。同様の悩みは他の部門にもあり、去る6月13日の部門協議会で「日本機械学会誌に部門ニュースレターを掲載する場合の規定（案）および可能性の検討と掲載条件の案」が提案・審議され、これを前向きに考える、との結論が出されました。これを受けて現在、各部門に対し、参加の意志が問われている段階です。

ニュースレターを学会誌本誌に掲載することの利点として、部門経費節減の他に、(1)ニュースレターには学会誌記事に相当する力作の解説等も多く、これらが全学会員の目に触れ情報の交流が促進される、(2)かなりの赤字を抱える学会本部の財政健全化に寄与できる、などがあり、欠点として同じニュースレターに今までのハードコピーと学会誌掲載分の二種類があることによる性格付けの難点、が考えられます。熱工学部門としては、前記「・・・の案」自体が土方先生のご提案になるもので本部門はこの発案者となっていることもあり、これを推進したい、と部門協議会に回答しております。

6月30日現在本件は最終確定をみておりませんが、大きな流れは実現に向かっており、早ければ次号のニュースレターは学会誌に掲載することになると思います。広報委員会は今後、ソフトウェア委員会とも連携して、(1)今まで通りのハードコピーによるニュースレター、(2)学会誌本誌掲載のニュースレター、(3)部門ホームページ、の三種類の媒体を使い分け、特定のトピックスに対する解説記事、部門が直接間接に関わる行事関係の情報の提供などを機動的に行って参ります。最終形態に落ちつくには少し時間がかかるかも知れませんが、今後各位の建設的なご意見を頂戴し「走りながら考える」ということにしたいと思います。ご協力をお願いします。

## 第74期熱工学部門賞

第74期の熱工学部門賞の選考にあたっては、例年通り部門賞規定に則り部門運営委員並びに各種委員会委員長に受賞候補者のご推薦をお願いした。平成8年7月15日の期限までに各方面でご活躍の多数の候補者のご推薦があった。いずれも熱工学部門賞にふさわしい方々であったが9月14日の部門賞委員会にて慎重に審議を行い9名の受賞者を内定し、9月21日の運営委員会にて承認された。

今期は永年功績賞を相原利雄東北大学流体科学研究所教授及び黒崎晏夫東京工業大学工学部教授、国際功績賞を中山恒メリーランド大学教授及びJames H. Whitelaw Imperial College教授、研究・技術功績賞を長島昭慶慶義塾大学理工学部教授、貢献賞を故斎藤図元室蘭工業大学工学部教授、高城敏美大阪大学工学部教授、(株)東芝営業企画部石塚勝氏及び門出政則佐賀大学理工学部教授が受賞された。

本年度は熱工学部門の規模とその活発な研究活動を勘案し受賞者の数を例年より2名増やして9名とした。また、例年は11月の熱工学講演会の折りに贈呈式を行っていたが本年度は日韓熱工学会議等の日程の関係上、平成9年3月29日の第74期通常総会の熱工学部門同好会に先立ち贈呈式を開催した。贈呈式には54名もの列席者があり、部門長鈴木健二郎京都大学教授よりそれぞれの受賞者への各賞の贈呈が行われ、その業績が称えられた。故斎藤図教授への贈賞はご令室並びにご子息に対して行われた。引き続いて行われた同好会では受賞者を囲みご受賞を祝して和

やかに歓談が行われた。

今期の部門賞の選考及び贈呈に当たってはこの5月に急逝された第74期熱工学部門賞委員長土方邦夫東京工業大学教授が非常にご尽力され、贈呈式を盛大に行うべく各方面への参加の呼びかけ、当日の受賞者の業績をご紹介するパンフレットの作成等に並々ならぬ熱意を注がれた。

また、贈呈式とそれに続く部門同好会の会場のご手配には総会委員会委員長の岡田昌志青山学院大学教授並びに研究室の方々に多大なご尽力を戴いた。

(第74期部門賞委員会幹事 片岡 勲 記)



## 熱工学部門ホームページのご案内

りにゆうある！

『熱工学部門ホームページ』

ソフトウェア委員会

委員長 瀧本 昭(金沢大学)

幹事 小林健一(東京工業大学)

今日、デジタル技術の急速な発展・普及に伴い、私たちの周りは、「モバイルネットワーク」、「サイバースペース」、「サイバーメトロポリス」、「バーチャルラボラトリ」、「インターネットテレビ」・・・などなど、カタカナ文字にどんどん囲まれています。カタカナ文化の善し悪しは別としても、これにG U I、T C P、D V Dなど英文省略文字が加わると、先輩諸兄からはますます情報化が敬遠されることとなります。しかし、そんなことにはお構いなしに情報化の波はどんどん押し寄せており、G U I(グラフィカ

ル・ユーザー・インターフェース)の実用化(「マウスでクリック」という簡単な操作)とコンピュータの高性能・低価格化によって、パソコン人口が急速に増加し、さらに、ネットワークの高速化と大容量化などの技術進歩により、私たちを取りまく環境が大きく変化しています。こうしたマルチメディア技術の進歩と社会環境の変化に追従すべく、このたび、「よりよい情報をより早く」会員の皆様にお伝えできるよう熱工学部門のホームページをリニューアル致しました。特に、日本機械学会の中の先達として熱工学講演会から導入されます講演論文集のC D - R O M化(次世代電子印刷)や、部門ニュースレターのオンライン版の発行など新企画をはじめとして、双方向・対話型(インタラクティブ)の利用を目指したメーリングリストや学会/研究室へのリンクの自動化サービスなど多数準備致しました。是非一度、熱工学部門のホームページにお越しの上、皆様からの忌憚のないご意見・ご希望など頂ければ幸いです。日々更新!をモットーに、さらに進展し続ける熱



熱工学部門ホームページの第一画面

工学部門ホームページにご期待下さい。

アドレスは <http://ted.mech.titech.ac.jp/TED/tedj.html>

[主な掲載事項]

- 最新情報
  - ・HomePageの更新情報
  - ・論文集のCD-ROM化
- 部門紹介
  - ・運営委員会、技術委員会
  - ・研究分科会
  - ・委員会などからのお知らせ
- 部門行事
  - ・講演会、講習会の開催案内

- ・第74期部門賞受賞者と第75期の募集
- ・委員会開催案内

カレンダー・熱工学関連行事（国内、国際会議）  
100周年記念行事

ニュースレター・No.22（1997年7月号）

部門サービス・乱流伝熱データベース(DATHET)

・メーリングリスト（入会方法）

・学会／研究室へのリンク

・文献検索情報

部門登録の方法

講演論文集の

CD-ROMによる作成のお知らせ

CD-ROM委員会

委員長 河村 洋（東京理科大）

幹事 小林健一（東京工業大学）

熱工学部門では、日本機械学会で検討されている講演論文集のCD-ROM化の先陣を切って、1997年度の部門講演会より講演論文集をCD-ROMにて発行することとなりました。また、既に講演論文集のCD-ROM化の進んでいるASMEとの共催となる第5回ASME/JSME熱工学会議（1999年3月、米国サンディエゴにて開催予定）の講演論文集もCD-ROMにて発行する予定となっています。本委員会は熱工学部門の講演論文集をCD-ROMにて発行するための技術的なサポートのために設置されました。

論文集のCD-ROMには、PDF (Portable Document Format) というフォーマットを採用します。PDFは、現在DTPのデファクトスタンダードとなっているポストスクリプトの生みの親アドビシステムズが開発した、インターネット世代のページ記述フォーマットです。PDFファイルを表示・印刷するには、Acrobat Readerというソフトウェアが必要となりますが、Acrobat Readerはさまざまなプラットフォーム

ムに対応しており、無料で配布されています（詳しくは、アドビのホームページ <http://www.adobe.co.jp/> を参考にしてください）。

論文をPDFによりCD-ROM化するメリットは、

機種に依存せず印刷物と同じレイアウトが再現できる。

カラーの図・写真を論文に気軽に使える。

動画や音声の添付ができる。

検索をすることができる。

文章のコピー・ペーストによる引用ができる。

保存場所をとらない。

WWWでの公開に適している。

出版に要する時間を短縮できる。

等があります。原稿作成の手間もほとんど今までと変わりません。原稿の作成には、下記のワープロを利用していただき、文書、図や表、数式等を全てレイアウトし、一つのファイルにまとめて提出していただきます。PDFへの変換は事務局にて行いますので、原稿作成に利用可能なソフトは、現状をいろいろ調査した結果、

MS-Word、Windows 95版以上、Macintosh版 6.0

一太郎、Windows版 ver.5以上

PageMaker、Windows版、Macintosh版ともver.5以上

ASCII版 TeX

にさせていただきますが、これでほとんどをカバーしてい

と思います。さらにこの中でどれを主体とするかといえ  
ば、当委員会としては、現状ではMS-Wordが最適と考え  
ています。詳しい論文作成法等は、熱工学部門のホーム  
ページ(<http://ted.mech.titech.ac.jp/TED/cdrom.html>)をご参  
照ください。論文作成に当たりお困りの際は、本委員会の  
各地区担当の委員にご相談ください。

これまでの、紙媒体の様々な制約から解放されたCD-  
ROMによる論文発表にご期待ください。

各地区担当の委員

北海道	黒田明慈(北海道大学)
東北	円山重直(東北大学)
関東	丸山茂夫(東京大学)
東海	三松順治(岐阜大学)
北陸	瀧本 昭(金沢大学)
関西	片岡 勲(京都大学)
中国四国	西田恵哉(広島大学)
九州	高田保之(九州大学)

## 各種委員会報告

### 講演論文賞新設のご案内

部門賞委員会

委員長 庄司正弘(東京大学)

幹事 吉田英生(東京工業大学)

今期より、部門一般表彰として講演論文賞(Thermal  
Engineering Best Paper Award)が新設されました。これは、  
熱工学部門主催の講演会において、講演発表を行った講演  
論文の中から、熱工学分野の進展に大きく寄与すると考え  
られる最も優れた研究および技術発表に対して賞状を授与  
するものです。

受賞者の決定は講演会の開催委員会の構成員の合議に

よって行います。受賞数は1つの講演会に対し1件を原則  
としますが、熱工学部門主催の国際会議に関しては、部門  
賞委員会と協議の上その数を決定します。また、熱工学シ  
ンポジウムにおいては原則として技術発表を顕彰します。

なお、本賞は本年7月に開催される熱工学シンポジウム  
から適用されますが、受賞者の決定は講演会が終了してか  
ら行われるため、贈賞は総会講演会の部門同好会等で行わ  
れる予定です。詳細につきましては庄司(Tel: 03-3812-  
2111 ex. 6406, Fax: 03-5800-6987, E-mail: shoji@photon.t.u-  
tokyo.ac.jp)または吉田(Tel: 03-5734-2500, Fax: 03-5734-  
2891, E-mail: yoshida@mech.titech.ac.jp)まで、お問い合  
わせ下さい。

### 第5回日米熱工学合同会議のお知らせ

A-J合同会議委員会

委員長 庄司正弘(東京大学)

幹事 菱田公一(慶應義塾大学)

以下の日程で第5回の日米熱工学合同会議が開催される  
予定です。ミネソタ大学のTerry Simon教授が米国側の委  
員長、日本側は東京工業大学の土方邦夫教授に代わり、東

京大学の庄司が委員長に就任いたしました。なお、本会議  
における論文集はCD-ROMにより出版されます。よろし  
くご準備の程をお願いいたします。

日時 1999年3月14～19日

場所 米国サンディエゴ市

詳細につきましては菱田(Tel: 045-563-1141 内3130, Fax:  
045-562-7625, E-mail: hishida@sd.keio.ac.jp)まで、お問い  
合わせ下さい。

## 講演会・講習会案内

### 熱工学部門関連行事案内

1997年度熱工学講演会

開催日: 1997年11月5日(水)～7日(金)

会場: 工業技術院筑波研究センター共用講堂(つくば市)

問合せ先: 成合英樹(筑波大構造工学系)

Tel: 0298-53-5256

詳細は日本機械学会誌4月号告158ページをご参照くだ  
さい。

講習会 エネルギーを有効に使う伝熱、燃焼技術  
-きれいに燃やす、めいっぱい使う-

開催日: 1997年10月30日(木)～31日(金)

会場: 神奈川サイエンスパーク(川崎市)

問合せ先： 佐藤秋雄（機械学会事務局）  
Tel:03-5360-3505

1997.11.30 ~ 12.3 第 10 回輸送現象国際会議 TED  
Newsletter No.20,

1998.6.8 ~ 12 International Symposium on Heat and  
Mass Transfer in Biological and Medical  
Engineering, BIOTRANSPORT'98 トル  
コ、クシャダス 石黒 博(筑波大学構  
造工学系) Tel.0298-53-5267, Fax.0298-  
53-5207, e-mail: ishiguro@kz.tsukuba.ac.jp

## 国際会議案内

( 会議名 会場 問合せ先 )

1997.7.28 ~ 8.1 3rd International Thermal Energy  
Congress TED Newsletter No.20

1997.8.10 ~ 12 1997 National Heat Transfer Conference  
米国、メリーランド州、ボルチモア  
TED Newsletter No.20

1997.10.26 ~ 29 24th International Thermal Conductivity  
Conference and 12th International Thermal  
Expansion Symposium 米国、ペンシル  
バニア州、ピッツバーグ ホームペ  
ージ : [http:// www.anter.com/conferences](http://www.anter.com/conferences)

1997.11.16 ~ 21 The 1997 International Mechanical  
Engineering Congress and Exposition: The  
Winter Annual Meeting of ASME TED  
Newsletter No.20

1998.8.23 ~ 28 第 1 1 回国際伝熱会議 韓国、慶州  
藤田恭伸(九州大学工学部) Tel.092-642-  
3471, e-mail: fujita@mech.kyushu-u.ac.jp,  
ホームページ : <http://ihtc.snu.ac.kr>

## インターネットによる熱工学関連行事のご案内

インターネットのホームページを利用できる方は、機械  
学会関連行事と ASME 関連行事をそれぞれ下記のホーム  
ページで見ることが出来ますのでお試しください。

機械学会関連 : <http://ted.mech.titech.ac.jp/TED/tedcal.html>

ASME 関連 : <http://www.asme.org/conf/confers.html>

## 第 75 期 熱工学部門委員

### ・運営委員会

部門長 高城敏美 (大阪大学) 副部門長 庄司正弘 (東京大学) 幹事 吉田英生 (東京工業大学)

- |               |                    |                         |
|---------------|--------------------|-------------------------|
| ・総務委員会        | 委員長 鈴木健二郎 (京都大学)   | 幹事 片岡 勲 (京都大学)          |
| ・総会委員会        | 委員長 岡崎 健 (東京工業大学)  | 幹事 大河誠司 (東京工業大学)        |
| ・全国大会委員会      | 委員長 熊谷 哲 (東北大学)    | 幹事 円山重直 (東北大学)          |
| ・熱工学講演会委員会    | 委員長 長野靖尚 (名古屋工業大学) | 幹事 加藤征三 (三重大学)          |
| ・学会賞委員会       | 委員長 新岡 嵩 (東北大学)    | 幹事 矢部 彰 (機械技術研究所)       |
| ・講習会委員会       | 委員長 望月貞成 (東京農工大学)  | 幹事 石塚 勝 ((株)東芝)         |
| ・K-J 合同会議委員会  | 委員長 中島 健 (神戸大学)    | 幹事 池田裕二 (神戸大学)          |
| ・部門賞委員会       | 委員長 庄司正弘 (東京大学)    | 幹事 吉田英生 (東京工業大学)        |
| ・年鑑委員会        | 委員長 五十嵐 保 (防衛大学校)  | 幹事 長崎孝夫 (東京工業大学)        |
| ・出版委員会        | 委員長 笠木伸英 (東京大学)    | 幹事 長坂雄次 (慶應義塾大学)        |
| ・A-J 合同会議委員会  | 委員長 庄司正弘 (東京大学)    | 幹事 菱田公一 (慶應義塾大学)        |
| ・熱工学シンポジウム委員会 | 委員長 鳥居 薫 (横浜国立大学)  | 幹事 大木良典 (三菱重工業 (株))     |
| ・学会基準委員会      | 委員長 熊田俊明 (北海道大学)   | 幹事 坂下弘人 (北海道大学)         |
| ・ソフトウェア委員会    | 委員長 瀧本 昭 (金沢大学)    | 幹事 小林健一 (東京工業大学)        |
| ・広報委員会        | 委員長 清水昭比古 (九州大学)   | 幹事 佐藤 勲 (東京工業大学)        |
| ・CD-ROM 委員会   | 委員長 河村 洋 (東京理科大学)  | 幹事 小林健一 (東京工業大学)        |
| ・標準化部会委員      | 渡辺健次 (東京電力 (株))    | ・国際交流部会委員 森 康彦 (慶應義塾大学) |

Newsletter に対するご意見、ご要望は、日本機械学会熱工学部門広報委員会までお寄せください。

## 第 75 期 広報委員会

委員長 清水昭比古 (九州大学) 幹事 佐藤 勲 (東京工業大学)  
委員 池田裕二 (神戸大学)、森 幸治 (大阪大学)、北村健三 (豊橋技術科学大学)、山田 純 (山梨大学)、  
石黒 博 (筑波大学)、塚田隆夫 (東北大学)、平澤茂樹 ((株)日立製作所)、水上 浩 ((株)東芝)

(社)日本機械学会 〒160 東京都新宿区信濃町 35 Tel. 03-5360-3500 (代) Fax.03-5360-3508